

尼崎市立潮小学校

学校まるごとビオトープ見取り図

カワバタモロコ 校庭で増やそう

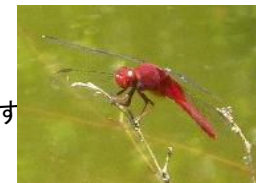
尼崎・潮小の児童が放流
 県のレッドデータブックで絶滅危惧Aランク（絶滅危機に類している）に分類されている淡水魚のカワバタモロコを増やす取り組みが、尼崎市潮江2丁目の市立潮小学校で始まった。神戸市北区のキリンビール神戸工場にあるビオトープに生息しているものをわけてもらい、22日に4年生の子どもらが校庭のビオトープの池に40匹を放った。
 カワバタモロコは県内では約20カ所の池で確認されているのみで、同日は三田市の県立人と自然の博物館の田中哲夫・主任研究員(62)から「稚魚の天敵になるキンギョやフナを池に入れないで」と指導を受けながら作業をした。東江野乃花さん(9)は「いっぱい卵を産んで、ちゃんと育ててほしいです」と話していた。（森直由）



絶滅危惧種カワバタモロコの保護池



いろいろなトンボも訪れます



バタフライガーデンにはいろいろな蝶がきます



毎年、5年生が水田を担当します

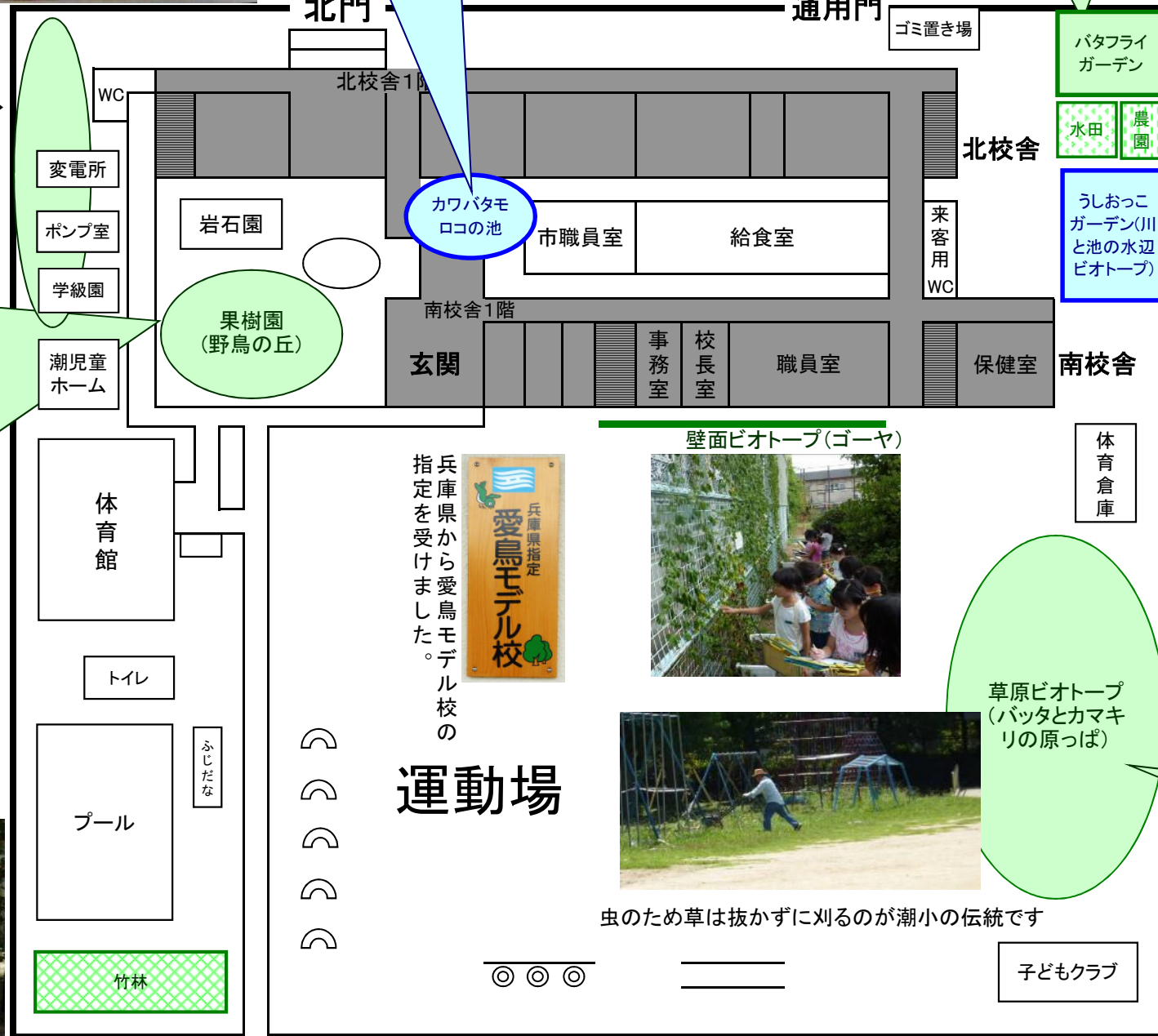
カワバタモロコは新聞でも紹介されました
赤ちゃんもすくすく育っています

カナヘビいっぱい、爬虫類ゾーン →

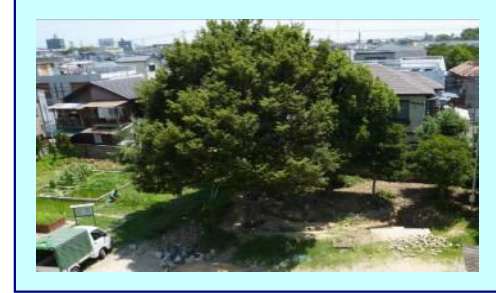
結構珍しい鳥も立ち寄ります



南門と北門に10年以上ある看板



小川が流れる水辺のビオトープ造成中



この辺りで虫とりができるのは学校の中だけです

虫のため草は抜かずに刈るのが潮小の伝統です